売上減75%に悪影響

運転停止で企業回答

原産調査　雇用・技術維持に懸念

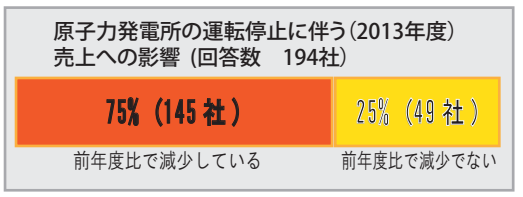
原産協会は十九日、原子力発電に係る産業動向調査の結果概要を発表した。協会が昨夏、国内の原子力発電産業に係る計四百八十六社にアンケート票を送付し、二百十六社（うち電気事業十一社、鉱工業他二百五社）から有効回答を得て取りまとめたもので、原子力発電の運転停止に伴う影響としては、七五%の企業が、売上の減少をあげており、経営環境の悪化につながっていることが示された。

今回の調査が対象期間とした二二年度で、原子力関係支出高は、電気事業者が一兆五千億円で前年度より三千億円の減少、鉱工業他が一兆五千億円で同千七百億円の減少。また、鉱工業他の受注残高は、約二兆円で前年度より約二千百億円の減少となった。

原子力関係従事者数は約四万七千人となっており、前年度比では、電気事業者がやや減少、鉱工業他がやや増加し、全体としては微増だった。

また、一三年度の原子力産業事業を取り巻く景況感については、「悪い」と回答した企業が八九%に上っており、一二年度の八六%からさらに悪化している。

原子力発電所の運転停止に伴う一三年度売上への影響としては、「前年度比で売上が減少している」と回答した企業が百四十五社（約七五%）に上り、そのうち、減少の程度では、「〇~四割」とする企業が最も多く（七四%）、一四年度以降も、約九〇%が「減少」または「横ばい」との見通しを示している。また、売上以外で今後予想される影響としてあげたのは、「雇用（人員）や組織体制」（六四%）、「技術面」（四八%）が多く、そのうち、「技術面」の影響では、「熟練技能者の育成・技術伝承の困難」を約七割の企業があげているなど、雇用の縮小が技術力の低下に拍車をかけつつあることが浮き彫りとなっている。



原産協会　資料より作成

医療支援の経験聞く　講演会開催

チェルノブイリ医療支援の医師

原子力災害に関する医療支援、国際交流、情報発信などを行う「チェルノブイリ医療支援ネットワーク」（福岡県）は、ベラルーシで医療活動に携わる医師を招き、今後の福島支援に役立てるための経験を聞く講演会を、三月六日に福岡学生交流会館で行う。

今回、来日し講演するベラルーシの医師二名は、日本の医療機関で研修を積んだ後、チェルノブイリ事故の最前線で医療活動に取り組んでいる。

講演会の詳細については、「チェルノブイリ医療支援ネットワーク」のホームページ（http://www.cher9.to/index.html）を参照。

福島第一で実証試験

三菱重工　除染の遠隔作業ロボット

三菱重工業は二十日、遠隔作業ロボット「MHI-MEISTeR」（マイスター、＝写真）を用い、福島第一原子力発電所での除染作業の実証試験と、コンクリートコアサンプリングを完了したと発表した。マイスターは、一九九九年の東海村臨界事故を受けて開発された災害対応ロボットに、国際廃炉研究開発機構の協力も得て改良を加えたもので、二本のロボットアームを駆使することにより、災害や過酷事故の現場で保守・補修作業ができる高性能ロボット。今回、作業能力を確認したことから、事故炉における支援作業に本格従事する計画だ。

同機は、福島第一1号機に、一月末から投入され、プラント内の放射能汚染物質の専用ノズルによる吸引除染や、ブラスト（研削）材を噴射し汚染表面を薄く削り取るブラスト除染の作業実証を行ったほか、1号機内の狭い通路での走行や、建屋内の汚染程度を調査することを目的としたコンクリートコアサンプリングも実施した。コアサンプリングは、壁や床から七十mm程度の深さのコンクリートサンプルを採取する作業で、専用に開発したドリルや挟み爪をロボットアームに装着し遠隔操作で行われた。2号機でも実施する予定だ。

加圧器管台取替工事を受注

重工、スウェーデン炉から　欧州初のアフターサービス工事

三菱重工業は十九日にスウェーデンのリングハルス原子力発電所3号機（PWR、百六万九千kW）の加圧器管台（ノズル）の取替工事を受注したと発表した。継手部分の合金を耐腐食性のより高いものに変更することにより、信頼性の向上を図った。コアサンプリングは、壁や床から七十mm程度の深さのコンクリートサンプルを採取する作業で、専用に開発したドリルや挟み爪をロボットアームに装着し遠隔操作で行われた。2号機でも実施する予定だ。

工事完成は一六年度を予定している。

本件は、同社が技術検証、認証試験、装置製作、材料調達、現地工事を請け負うもので、加圧器に取り付けられている六か所の管台の継手部を、600系ニッケル基合金から、高温・高圧下で優れた耐腐食性を示す690系ニッケル基合金に交換する。放射線量の高い環境下での作業となるため、現地に熟練者を派遣して施工するが、三菱重工業の原子力分野では、欧州で初めての現地アフターサービス工事となるとしている。

同社では、これまでも、リングハルス電力への機器類納入実績を有しており、今回の受注も、技術力や品質等の正確性や、国内での実績などが評価されたものとしている。

併設展示への出展と広告を募集

原産年次大会

原産協会は、第四十七回原産年次大会を四月十五~十六日に東京・有楽町で開催するにあたり、併設して行う技術展示コーナーへの出展や、大会で配布するプログラム等への広告掲載を広く会員から募集している。

展示コーナーは、原産協会会員の東北の復興・復旧に資する幅広い技術や製品を中心とした取り組みを紹介するもの。大会参加者間の有益な情報交換の機会となると期待されている。

技術展示出展および広告掲載に関するブース・スペースのサイズ、金額等の詳細は原産協会会員HP（https://www.jaif.or.jp/member）に掲載されている。

TENEX
Leading Supplier of Nuclear Fuel Cycle Goods and Services

株式会社テネックス・ジャパン
TENEX-JAPAN Co.,
東京都港区虎の門5丁目11番2号 オランダヒルズ森タワー14F
（Tel）:03-5776-1511（Fax）:03-5776-1512（E-mail）：info@tenex.co.jp